



## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社サイトリ細胞研究所  
コード番号 3750 URL <https://www.cytori.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星野 喜宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 藤村 剛

TEL 03-6860-5701

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	862	26.5	354		423		443	
2023年3月期第2四半期	1,172	75.4	380		437		561	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 442百万円 ( %) 2023年3月期第2四半期 561百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	49.65	
2023年3月期第2四半期	62.86	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	13,598	2,213	14.7	223.76
2023年3月期	14,091	2,656	17.3	273.41

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 1,997百万円 2023年3月期 2,441百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,790	16.5	21		80		30		3.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	8,929,419 株	2023年3月期	8,929,419 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,025 株	2023年3月期	925 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	8,928,418 株	2023年3月期2Q	8,928,561 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローの状況 .....	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報) .....	9
(重要な後発事象) .....	10
3. その他 .....	10
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限の緩和により個人消費やインバウンド需要が回復したものの、資源価格の高騰や物価の上昇等により先行きは依然不透明な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループにおきましては、事業基盤の整備・拡充、ならびに事業領域における競争力強化、収益性向上に鋭意取り組んでまいりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における連結売上高は862百万円（前年同四半期比26.5%減）、営業損失は354百万円（前年同四半期 営業損失380百万円）、経常損失は423百万円（前年同四半期 経常損失437百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は443百万円（前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失561百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったホテルKANAZAWA(同)は、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱が新設分割により設立した㈱ホテル金沢を当第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### （メディカル事業）

当第2四半期連結累計期間におけるメディカル事業は、医療機器として認可を受けたセルーション遠心分離器と高度管理医療機器クラスⅢとして認可を受けたセルセラピーキットを国内の医療機関へ積極的に販売をしてまいりました。しかしながら、アライアンス先の選定及び細胞治療サービスの提供開始が当初想定より遅れていること等により、当第2四半期連結累計期間のメディカル事業の売上高は44百万円（前年同四半期比46.6%減）となり、営業損失284百万円（前年同四半期 営業損失118百万円）となりました。

#### （リアルアセット事業）

当第2四半期連結累計期間におけるリアルアセット事業は、ホテル金沢㈱において新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた宿泊・宴会の売上が回復したものの、前期の匿名組合出資金持分売却等が影響し、当第2四半期連結累計期間のリアルアセット事業の売上高は817百万円（前年同四半期比24.9%減）となりました。営業損益につきましては、ホテル金沢㈱の売上が順調に推移したことにより、営業利益17百万円（前年同四半期 営業損失187百万円）を計上することとなりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,018百万円となり、前連結会計年度末に比べ369百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。固定資産は12,580百万円となり、前連結会計年度末に比べ123百万円減少いたしました。

この結果、総資産は13,598百万円となり、前連結会計年度末に比べ493百万円減少いたしました。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,312百万円となり、前連結会計年度末に比べ138百万円増加いたしました。これは主に短期借入金の増加によるものであります。固定負債は10,072百万円となり、前連結会計年度末に比べ188百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の返済によるものであります。

この結果、負債合計は11,384百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ442百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は14.7%（前連結会計年度末は17.3%）となりました。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、208百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、減少した資金は367百万円（前年同四半期は19百万円の増加）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上及び利息の支払によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は3百万円（前年同四半期は93百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、減少した資金は94百万円（前年同四半期は66百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が短期借入れによる収入を上回ったことによるものであります。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月12日の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,123,050	658,070
売掛金	113,144	109,896
商品	116,211	171,019
その他	35,793	79,384
流動資産合計	1,388,200	1,018,370
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,231,334	4,142,765
土地	7,252,244	7,252,244
その他（純額）	243,607	238,844
有形固定資産合計	11,727,186	11,633,854
無形固定資産		
のれん	647,145	624,179
その他	41,682	35,122
無形固定資産合計	688,828	659,302
投資その他の資産	287,419	286,882
固定資産合計	12,703,434	12,580,039
資産合計	14,091,635	13,598,409
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	500,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	401,237	411,294
その他	272,386	301,024
流動負債合計	1,173,624	1,312,319
固定負債		
長期借入金	7,605,855	7,401,475
匿名組合出資預り金	1,078,884	1,074,362
繰延税金負債	1,436,377	1,459,085
その他	140,212	137,446
固定負債合計	10,261,328	10,072,370
負債合計	11,434,953	11,384,689
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,939,268	2,939,268
利益剰余金	△596,921	△1,040,255
自己株式	△1,240	△1,348
株主資本合計	2,441,106	1,997,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66	143
その他の包括利益累計額合計	66	143
新株予約権	211,501	211,501
非支配株主持分	4,007	4,409
純資産合計	2,656,682	2,213,719
負債純資産合計	14,091,635	13,598,409

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	1,172,744	862,531
売上原価	634,678	134,423
売上総利益	538,065	728,108
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	202,797	214,725
減価償却費	140,627	104,837
その他	575,626	762,617
販売費及び一般管理費合計	919,050	1,082,180
営業損失(△)	△380,985	△354,071
営業外収益		
受取保険金	-	3,085
助成金収入	22,758	-
利子補給金	2,365	2,167
その他	3,423	4,713
営業外収益合計	28,548	9,966
営業外費用		
支払利息	59,664	79,310
アレンジメントフィー	25,000	-
その他	269	112
営業外費用合計	84,934	79,422
経常損失(△)	△437,370	△423,528
特別利益		
その他	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
関係会社出資金売却損	107,628	-
減損損失	6,172	-
その他	619	274
特別損失合計	114,419	274
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純損失(△)	△551,790	△423,803
匿名組合損益分配額	△12,785	△4,521
税金等調整前四半期純損失(△)	△539,005	△419,281
法人税、住民税及び事業税	960	983
法人税等調整額	21,300	22,668
法人税等合計	22,260	23,651
四半期純損失(△)	△561,266	△442,932
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	402
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△561,281	△443,334

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△561,266	△442,932
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	77
その他の包括利益合計	△17	77
四半期包括利益	△561,283	△442,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△561,299	△443,256
非支配株主に係る四半期包括利益	15	402

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△539,005	△419,281
減価償却費	145,803	104,837
のれん償却額	22,966	22,966
関係会社出資金売却損	107,628	-
売上債権の増減額 (△は増加)	10,029	3,248
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△22,019	△56,618
仕入債務の増減額 (△は減少)	12,054	△114
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	337,667	-
その他	3,072	57,685
小計	78,197	△287,276
利息の支払額	△55,744	△78,657
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,603	△1,122
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,849	△367,057
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△150,000	-
有形固定資産の取得による支出	△114,616	△3,511
無形固定資産の取得による支出	△5,600	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	198,497	-
その他	△22,035	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△93,753	△3,492
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	-	100,000
長期借入れによる収入	2,500,000	-
長期借入金の返済による支出	△2,621,914	△194,322
匿名組合員からの払込みによる収入	55,264	-
その他	3	△107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66,646	△94,430
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△140,550	△464,980
現金及び現金同等物の期首残高	701,558	673,050
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△150	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	560,857	208,070

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症による影響

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方、収束時期やその影響の程度の見積り及び判断の基となった仮定について、前連結会計年度から重要な変更を行っておりません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	メディカル事業	リアルアセット事業	計		
売上高					
メディカル	83,682	—	83,682	—	83,682
ホテル業	—	414,786	414,786	—	414,786
不動産業	—	650,238	650,238	—	650,238
顧客との契約から生じる収益	83,682	1,065,024	1,148,706	—	1,148,706
その他の収益	—	24,037	24,037	—	24,037
外部顧客への売上高	83,682	1,089,062	1,172,744	—	1,172,744
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	83,682	1,089,062	1,172,744	—	1,172,744
セグメント損失 (△)	△118,757	△187,918	△306,675	△74,309	△380,985

(注) 1 セグメント損失の調整額△74,309千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	メディカル事業	リアルアセット事業	計		
売上高					
メディカル	44,646	—	44,646	—	44,646
ホテル業	—	640,248	640,248	—	640,248
不動産業	—	126,471	126,471	—	126,471
顧客との契約から生じる収益	44,646	766,720	811,366	—	811,366
その他の収益	—	51,165	51,165	—	51,165
外部顧客への売上高	44,646	817,885	862,531	—	862,531
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	44,646	817,885	862,531	—	862,531
セグメント利益又は損失 (△)	△284,847	17,430	△267,417	△86,654	△354,071

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△86,654千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

重要な子会社等の設立

当社は2023年10月5日開催の取締役会において、以下のとおり子会社を設立することを決議いたしました。当該子会社の資本金の額が当社の資本金の額の100分の10以上に相当するため、同社は当社の特定子会社に該当することとなります。

1. 設立の目的

当社グループは、メディカル事業にて、脂肪組織再生由来（幹）細胞を用いた細胞治療の研究、医療機器の製造・輸出入・販売を中心に展開しております。今般、当社グループの持続的な成長と企業価値向上を図るため、動物を対象とした細胞治療を事業の主な目的とし、既存療法では治療が困難な伴侶動物や畜産動物・競走馬などへの細胞治療の提供、治療有効性の確立・普及を進めてまいります。

これまでヒト医療において確立した技術・事業を動物医療分野でも先進的に進めることを目的に設立するものであります。

2. 設立する子会社の概要

(1) 名称	株式会社アニマルセラピー
(2) 所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番1号
(3) 事業の内容	動物を対象とした細胞治療
(4) 資本金	10百万円
(5) 設立の時期	2023年11月1日
(6) 出資比率	当社100%

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、継続して営業損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。このような状況の解消を図るべく、当社グループでは医療機器の販売を中心とするビジネスモデルから細胞治療を主軸とした医療サービスへのシフトを加速し、収益の改善に取り組んでまいります。

資金面につきましては、当第2四半期連結会計期間末において、658百万円の現金及び預金を保有しており、当面の事業資金を確保しております。また、保有不動産の売却を進めて資金を確保してまいります。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。